

問うて云はく、二乗ようぶじょうぶつ永不成仏の教に菩薩の作仏を許すべきや。答へて云はく、楞伽りょうが經第二に云はく「大慧、何者か無性むしやうじやう乗なる、謂はく一闍提いっせんたいなり。大慧、一闍提とは涅槃の性無し。何を以ての故に、解脱げだつの中に於て信心を生ぜず涅槃に入らざる。大慧、一闍提とは二種あり、何等をか二と為す。一には一切の善根ぜんこんを焚焼ふんしょうす、二には一切衆生れんみんを憐愍れんみんして尽一切衆生界おこの願を作す。大慧、云何が一切の善根を焚焼する。謂はく、菩薩蔵ぼつを謗なじて是くの如き言を作す。彼の修多羅毘尼しゆたらびにげだつ解脱の説に隨順するに非ず、諸の善根を捨つと、是の故に涅槃を得ず。大慧、衆生を憐愍して衆生界を尽くさんとの願おこを作すは是を菩薩と為す。大慧菩薩方便して願を作す。若し諸の衆生の涅槃に入らざれば我も亦涅槃に入らずと。是の故に菩薩摩訶薩まかさつねはん涅槃に入らず。大慧、是を二種の一闍提と名づく。涅槃の性無し。是の義を以ての故に決定して一闍提の行を取る。大慧菩薩仏もつに白して言さく、世尊、此の二種の一闍提、何等の一闍提か常に涅槃に入らざる。仏大慧に告げたまはく、菩薩摩訶薩の一闍提は常に涅槃に入らず。何を以ての故に。能善く一切諸法、本来涅槃なりと知るを以て、是の故に涅槃に入らず。一切の善根を捨つる闍提に非ず。何を以ての故に。大慧、彼の一切の善根を捨つる闍提は、若し諸仏善知識等に値ひたてまつれば菩提心おを發すなわこし諸の善根を生じすなわ便ち涅槃を証す」等云云。此の經文に「若し諸の衆生涅槃に入らざれば我も亦涅槃に入らじ」等云云。前四味の諸經に二乗作仏を許さず。之を以て之を思ふに、四味諸經の四教の菩薩の作仏も有り難きか。華嚴經に云はく「衆生界しゆじやう尽むきざれば我が願も亦尽むきず」等云云。一切の菩薩必ず四弘誓願しくせいがんを發しこすべし。其の中の衆生無邊誓願度しゆじやうむへんせいがんどの願之を満足せざれば、無上菩提誓願証むじやうぼだいせいがんしやうの願又成じ難し。之を以て之を案ずるに、四十余年の文二乗に限らば菩薩の願又成じ難きか。

問うて云はく、二乗成仏之無ければ菩薩の成仏も之無き正しき証文如何。答へて云はく、涅槃經三十六に云はく「仏性は是衆生に有りと信ずと雖も必ず一切皆ことごと悉く之有らず。是の故に名づけて信不具足と為す」三十三本と。此の文の如くんば、先四味の諸菩薩皆一闍提の人なり。二乗作仏を許さず、二乗の作仏を成ぜざるのみに非ず、將又菩薩の作仏も之を許さざる者なり。之を以て之を思うに、四十余年の文二乗作仏を許さずんば菩薩の成仏も又之無きなり。一乗要決の中に云はく「涅槃經の三十六に云はく、仏性は是衆生に有りと信ずと雖も必ず一切皆悉く之有らず。是の故に名づけて信不具足と為す」三十三本と。第三十一に説く、一切衆生及び一闍提に悉く仏性有りと信ずるを、菩薩の十法の中の第一の信心具足と名づく三十六本と。一切衆生悉有仏性しつうぶつしやうを明かすは是少分に非ず。若し猶堅く少分の一切なりと執せば唯經に違するのみにあらず亦信不具なり。何に困ねがつて樂またつて一闍提と作るや。此に由つて全分の有性ぜんぶんうしやうを許すべし。理亦一切の成仏を許すべし」と。

慈恩じおんの心經げんさん玄贊せんたいに云はく「大悲の辺に約すれば常に闡提せんたいと為る。大智の辺に約すれば亦当まさに作仏ますべし。宝公ほうこうの云はく、大悲闡提だいとは是前經の所説なり。前説を以て後説を難こんべいずべからざるなり。諸師の釈意だいと大途こんべい之に同じ」文。金鐔こんべいの註に云はく「境は謂はく四諦い、百界三千の生死は即ち苦なり。此の生死即ち是涅槃いなりと達するを衆生無辺誓願度しゅじょうむへんせいがんどと名づく。百界三千三惑を具足す。此の煩惱即ち是菩提ぼんのうむへんせいがんたんなりと達するを煩惱無辺誓願断ぼんどうむじょうせいがんじょうと名づく。生死即涅槃なれば円の仏性を証するは即ち仏道無上誓願成ぶつどうむじょうせいがんじょうなり。惑即菩提にして般若はんにかに非ざること無ければ即ち法門無尽誓願知むじんせいがんちなり。惑智無二なれば生仏体同しょうぶつたいじ。苦集唯心くじゅうゆいしん、四弘融攝しくゆうしゅう、一即一切しるしなり、斯の言徴しるし有り」文。慈覺大師の速証そくしょうぶつ位集いしゅうに云はく「第一に唯今經の力用仏の下化衆生の願を満ず。故に世に出でて之を説く。所謂諸仏の因位りきゆう・四弘の願げ・利生断惑りしょうだんなく・知法作仏ちほうさぶつなり。然るに因円果満なれば後の三願は満ず。利生りしょうの一願甚だ満じ難しと為す。彼の華嚴の力十界皆仏道を成ずること能はず。阿含・方等・般若も亦爾なり。後番の五味皆成仏道の本懐なること能はず。今此の妙經は十界皆成仏道なること分明なり。彼の達多無間に墮するに天王仏の記を授け、竜女成仏らせつによし、十羅刹女も仏道を悟り、阿修羅も成仏の總記を受け、人天・二乗・三教の菩薩円妙の仏道に入る。經に云はく我が昔の所願の如きは今已に満足しぬ。一切衆生を化して皆仏道に入らしむ云云。衆生界尽きざるが故に、未だ仏道に入らざる衆生有りと雖も然れども十界皆成仏すること唯今經の力に在り。故に利生の本懐なり」云云。又云はく「第一に妙經の大意を明かさば、諸仏は唯一大事の因縁を以ての故に世に出現し、一切衆生悉有仏性と説く。闡法・觀行皆当もんぼうかんぎょうまささぶつに作仏すべし」と。

抑そもそもほとけ 仏何の因縁を以て十界の衆生悉く三因仏性さんいんぶつしょう有りと説きたまふや。天親菩薩の仏性論縁起分の第一に云はく「如来五種の過失を除き、五種の功德を生ずるが為の故に、一切衆生悉有仏性と説きたまふ。謂はく、五種の過失とは、一には下劣心げれつ、二には高慢心ごうまん、三には虚妄執こもうしゅう、四には眞法を謗じ、五には我執がしゅうを起こす。五種の功德とは、一には正勤しょうごん、二には恭敬くぎょう、三には般若はんにか、四には闍那じゃな、五には大悲なり。生ずること無しと疑ふが故に菩提心を発すること能はざるを下劣心と名づけ、我に性有って能く菩提心を発こすと謂へるを高慢と名づけ、一切の法無我の中に於て有我の執を作すを虚妄執と名づけ、一切諸法の清淨の智慧功德を違謗するを謗眞法と名づけ、意唯己ただおのれを存して一切衆生を憐むことを欲せざるを起我執きがしゅうと名づく。此の五に翻対して定めて性有りと知りて菩提心を発おこす」と。

日 蓮 花 押